

## 0440 | 映像文化論

4 単位 (通信授業 4 単位)

林司講師

## 授業の概要と目標

今日は映像化社会といわれるが、その「映像」技術の原点は、いまから約 180 年前に発明された写真である。写真術の出現は、人々の知識や経験の共有を豊かにし、社会の近代化を加速するとともに、映画を始めさらなる映像技術の開発を促した。また映像メディアの実用化は、造形表現、視覚認識の方法、そして技術的学問的な面での方法論に、大きな変革をもたらした。本講ではそれらの変遷に関心を払い、写真の歴史を軸として「映像」の関与という観点からの文化論を展開する。

## 課題の概要

4 単位の学習成果をあげるために、4 回の通信課題を提出する。  
教科書の消化を前提とした上で、各学生のこれまでの映像体験を照らし合わせ、きわめて身近なテーマを分析、考察する段階から始める。回を重ねるごとに、各人が映像文明についての洞察的姿勢を獲得していくことを望む。なお、web・郵送ともに、レポート文字数の中に参考資料・参考 URL 等の注釈は含まない。

## ○通信授業課題 1

「写真」とは何かを、自身の体験をもとに述べなさい。図版、写真等 3 枚まで添付可。

## ○通信授業課題 2

写真の発明と発達が、社会に及ぼした影響を写真の歴史をふまえて考察しなさい。図版、写真等 3 枚まで添付可。

## ○通信授業課題 3

芸術としての写真について、19 世紀半ば以降の写真の歴史をもとに考えるところを述べなさい。図版、写真等 3 枚まで添付可。

## ○通信授業課題 4

デジタル技術やネット社会におけるデジタル写真の利点と問題点を述べ、デジタル写真ならではの作品を制作している写真家の例をあげなさい。図版、写真等 1～3 枚まで添付のこと。

\*課題については学習指導書『造形文化科目・教職に関する科目 平成 29 年度』を必ず参照すること。

## 授業計画

## [通信授業]

序 「写真史」を学ぶことについて—写真と現代生活の関係を捉え直す

1. 写真前史—その知識伝統の系譜
2. 写真術の誕生—発明者達
3. 写真活用の第一歩—旅行・調査・記録
4. 肖像写真と新しい社会—市民社会の息吹を受けて
5. メディアとしての写真の台頭—社会の実相を映す鏡
6. 新しい芸術思潮と写真—両大戦間の前衛芸術の興隆
7. グラフジャーナリズムの時代—雑誌文化と市民社会
8. 芸術行為としての写真の始動—ドキュメンタリー写真の新たな意味
9. 映像化社会におけるアイデンティティー—現代芸術に見る写真の応用
10. 転換期の写真表現と未来への展望—デジタル写真技術の可能性と視覚伝達の文化

## 成績評価の方法

## ◎科目試験

## 履修条件及び履修年次

[履修年次] 1～4 年次

[履修条件] なし

[備 考] 履修年次は問わない。

---

**教材等**

教科書：平木収『映像文化論』（武蔵野美術大学出版局 2002年）

学習指導書：『造形文化科目・教職に関する科目 平成29年度』

（武蔵野美術大学造形学部通信教育課程 2017年）

---

**その他**

写真を中心として映像全般を鑑賞する機会を大切にすること。

美術館やギャラリー等の展覧会に足を運んだり、写真集や雑誌、Webなどを活用して、様々な写真に触れて“見る目”を養うこと。